

数世紀前、藩主が大規模な陣屋を所有していましたが、石蔵はそこに残された建物の一つです。9m x 25m という大きさですが、陣屋全体から見るとほんの一部に過ぎません。石蔵は、藩への年貢として納められていた穀物を備蓄するために使われました。その中でも、米は江戸時代（1603 年～1867 年）に入ってから通貨として広く使用されており、石蔵は穀物庫と銀行の金庫室の役割を兼ね備えていました。

年貢米など、備蓄する穀物の保存状態を保つため、石蔵は玄武岩で作られています。玄武岩は火山岩の一種で、富江地区のいたる所に存在します。玄武岩から切り出された大きな石板はのみで加工され、丁寧に建築用ブロックに仕上げられます。石材を繋ぎ合わせるためにモルタルは使われていません。こうした緻密な石造建築技術は多大な労力と費用を要するので、特に重要な穀物を保存する目的に限って使用されることがほとんどでした。